

病理基礎講習 参加報告

医学系部門 生命科学実験班 尾崎 佑子

1. はじめに（目的等）

あらゆる細胞や組織の形態や機能を可視化してその生命現象の本質に迫る組織細胞化学の技術は、生命科学分野の研究に必要不可欠な実験手法となっている。私が配属されている原医研では技術支援の一つとしてこれらの手技を用いた組織標本作製を行っている。組織標本作製は、固定、切り出し、包埋、薄切、染色など多くの工程があり、質の高い技術支援を行うには相応の技術が必要で、そのためには日々の経験の積み重ねとともに、新しい技術や知識の習得が不可欠である。そこで、組織標本作製に関する知識や技術の基礎を再確認すること、また、新たな知識や技術の習得、情報収集を行うことを目的として、本講習に参加した。

2. 期間・場所

期間：平成 30 年 10 月 4 日(木) ～ 5 日(金)

会場：サクラファインテックジャパン(株) ラボ・スクエア (東京都中央区)

3. 参加者等

1 名

4. 研修内容

1 日目：凍結切片作製のポイント(講義・実習(包埋・薄切・染色))

2 日目：凍結切片作製(実習)

パラフィン標本作製のポイント(講義・実習(薄切のみ))

標本作製時のアーチファクトについて(講義)

5. まとめと感想

今回の講習ではこれまでやってきたことの復習に加え、新たな技術や知識を学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。

凍結切片作製はまだあまり経験がないため、脂肪組織など難易度の高いサンプルでは薄切に少し苦戦したが、的確なアドバイスを頂き、最後には何とか薄切できるようになった。

また、パラフィン切片薄切実習では、切片を水に浮かせて回収したり、いつもとは違った道具で切片を回収するなど、普段やらない方法を体験することができた。作業的にはそこまで難しくないが、それぞれにコツがあり、慣れるまでに時間がかかったが、ある程度はきれいな標本作製することができるようになった。今後、もしうまく薄切できないサンプルがあった場合には、今回学んだ方法で薄切を試みたいと考えている。さらに標本作製時におけるアーチファクトについて詳細な説明があり、今後の業務に活かせそうな内容で、大変勉強になった。

今後も本講習で学んだ知識や技術を活かし、効率的で質の良い技術支援ができるよう、さらに自己研鑽を積んでいきたい。